

◇◇◇佐倉地区の概要◇◇◇

佐倉地区は、京成電鉄の北側の旧内郷村地区と南側の旧城下町地区とに大別される。内郷地区は、宮前地区で宅地開発が進み、その他の地区は田畑が広がっている。また、印旛沼を北にのぞみ、草ぶえの丘、市民の森、岩名運動公園などレジャー施設が数多く集まっている。京成電鉄とJR総武本線、鹿島川にはさまれた旧城下町地区は、未だに城下町当時の面影が所々に残っており、国立歴史民俗博物館、佐倉城址、武家屋敷、順天堂記念館、平成12年11月一般公開された旧堀田邸など、歴史と文化の環境に恵まれている。また、城下町の面影を残す台地上に、市役所、裁判所、検察庁そして、市立図書館、市民体育館、市立美術館など公共施設が集中しており商店街も形成している。

公民館は、この台地の南側の低地に（財）印旛郡市文化財センター、佐倉保育園と並んで建っている。付近には、平成11年3月に建設された千葉県印旛合同庁舎がある。JR佐倉駅、京成佐倉駅ともに徒歩15～20分、最寄りバス停からも5分以上かかり、徒歩での来館者には多少不便である。佐倉地区の人口は平成18年3月末日で、30,387人で昨年に比べ466人の減となっているが、ここ10年位はほぼ、横ばいの状況である。

管 理 ・ 運 営 の 部

1. 公民館運営計画

運営方針

歴史のまち佐倉の生活・文化の向上と、ふるさと佐倉のまちづくりに携わる市民の連帯意識を高めるため、だれもが学習しやすい公民館、集会活動のよりどころとなる公民館、親睦を深める場となる公民館として生涯学習のねらいを達成すべく、社会教育活動の中心施設としてその役割を果たすことに努める。

努力目標

- 利用者に対して、快い対応をするように努める。
- より多くの人に利用してもらうよう施設設備の提供に工夫をすると共に、安全管理に努める。
- 各種の事業内容の充実に努める。

事業内容

1. 施設・備品の提供

地域住民各層の利用に応えるため、サービス業務の向上を図る。

(1) 施設の提供（団体、グループ単位）

利用時間 ○午前9時から午後9時30分まで。

ただし、月曜日と祝日は、午後5時00分まで。

休館日 第2・第4月曜日、及び年末・年始（12月28日～1月4日）。

(2) 備品の提供（団体、グループ単位）

館外貸与できるもの

机、椅子、拡声装置、キャンプ用具

2. 学級講座

学習機会の拡充と学習内容の充実をはかるため、学級講座の質的向上につとめる。

幼児家庭教育学級、少年教育講座、成人教育講座、佐倉市民カレッジ等の実施。

3. 講演会事業

継続的に学習することができない人のために、学習機会の提供をはかる。

4. 団体育成

公民館利用グループ・サークル活動の育成と支援並びに懇親をはかる。子ども会活動への支援、高齢者ボランティアグループの支援をおこなう。

5 . 文化援助事業

行政機関、文化団体の教育文化行事への協力体制を確立する。
文化団体発表会、文化祭、美術展、音楽鑑賞会、映画観賞会への援助。

6 . 広報事業

公民館の役割や各種文化行事等の情報提供。
中央公民館だよりの発行、各種館外催物、各種ポスター等の掲示、及びパンフレットの配布、公民館の役割や利用の仕方のパンフレット配布。

7 . 展示事業

ロビー、展示ホールの効果的活用を図る。
利用者作品展、各種展示会の開催。

8 . 図 書

図書館と連携の上、学習資料を収集し、活用する。
カレッジ図書コーナーの設置、家庭教育関係の資料の整備。

2. 公民館利用状況

年度別利用状況

年度 区分	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
利用件数	5,963	6,250	6,368	6,588	6,730
利用人数	115,481	118,356	116,316	120,713	118,929
開館日数	334	333	333	333	334

事業の部

領域	事業名	対象	期間・回数	内容
家庭教育	2歳児親子あそび教室	2歳児と親 19組	5月～7月 8回	遊びをとおして、幼児の自主性と豊かな心を育てあげることのできる親の態度を養った。
	親子体操教室	2・3歳児と親 17組	2月～3月 5回	親と子が触れ合いを大切にしながら、子どもの様々な発達を伸ばしていくための講座を実施した
	子育てホットクラブ	1歳児と親 19組	10月～11月 4回	幼児期を持つ親の仲間づくりの場。情報交換の場として自由に利用できる空間として開設。
青少年教育	ジュニアカヌースクール	小学生3～6年生 中学生2年生 16名	6月～10月 9回	印旛沼を利用したカヌープログラムを通して親子で自然に触れ合う機会を提供した。
	チャレンジクッキング	小学生4・5・6年生 23名	6月～8月 土曜日 3回	子どもたちに食の大切さを知ってもらうと同時に自分で食事を作ることの喜びを知ってもらう。また、食から郷土の文化に触れてもらうことで、郷土を愛する心を育てる。
	子どもの居場所作り	小学生 計284名	夏休み中	公民館を利用しているサークルが、小学生を対象に指導し、日頃の学習の成果を披露した。茶道・華道・調理など。
	星空教室	小学生と親 計200名	夏 2回 秋 1回 冬 1回	星空観察を通して宇宙の広大さ、不思議さを感じるにより、あらゆるものについて好奇心・探究心を抱いてもらう。
	通学合宿	小学生4・5・6年生 計44名	7月・10月 3泊4日	異なった年齢集団の中で様々な体験をすることにより、社会人として良い習慣を身に付けるとともに一般（地域）との交流を図った。

成人教育	健康講座 ～自然散策・森林と巨木を訪ねて～	成人 30名	10月 1回	佐倉の森林と巨木を訪ね歩くことにより郷土を学び、ウォーキングをしながら幅広い年齢層が交流した。
	佐倉学総合講座 ～幕末の佐倉探訪～	成人 62名	3月 2回	「これから佐倉の歴史を学んでみよう」という方を対象に、佐倉地区の史跡散策と学習を行った。
	佐倉学専門講座 ～古今佐倉真佐子を読む～	成人 99名	6月～8月 全7回	約300年前に佐倉の様子を絵図に添えて書きつづられた「古今佐倉真佐子」から、当時の佐倉城内・風俗・風習・動植物などについて学んだ。
	佐倉学専門講座 ～印旛沼の自然～	成人 24名	6月16・23・30日 全3回	佐倉市のシンボルでもある印旛沼の歴史、自然環境等を学習した。
	佐倉学講座 ～城下町佐倉を撮ろう～	成人 11名	6月～3月 全5回	城下町佐倉に残る史跡等を撮影することから、佐倉の歴史を学んだ。

成人教育	佐倉学講座 「手作りこんにゃく」 づくり	成人 18名	11月 1回	佐倉の食文化の一旦を担って見聞された「佐倉コンニャク」をテーマとし、自家製のこんにゃく芋を使ってコンニャクづくりに挑戦した。
	パソコン広場	パソコン初心者の 成人 各回10名	4月～3月 毎週月～金曜日	パソコンに実際に触れ、操作することによって、パソコンとはどのようなものであるかを体験してもらった。
	パソコンイベント	パソコン初心者の 成人 延べ42名	12月 1回	初心者を対象に、パソコンに興味を持ってもらい、情報格差を埋めるためのイベントを実施した。
	地域づくり入門講座 避難所体験講座	成人 18名	3月 1回	災害時に設置される避難所の体験を通じて、日頃から災害に対しての心構えや備え、防災についての意識を高めた。
高齢者教育	佐倉市民カレッジ 《であい課程》 第1学年・第2学年 2年間の学習コース 《専攻課程》 第3学年・第4学年 2年間の学習コース (以下の4コース) あったか福祉コース ふるさと歴史コース さわやか情報コース ゆっくり元気コース	第1学年		高齢社会のなかで、市民が健康で生きがいを持ち、地域と連携をもちながら、住みよいまちづくりを考え実践をととした生涯学習の場とした。 「であい課程」では、主に一般教養科目を学び。その領域は、健康・家庭・生きがい・経済・佐倉の歴史・環境・市政・福祉・国際理解・仲間づくり等の学習を行った。特に1年生は、学ぶ意義から入り、仲間づくりに重点を置いた。2年生は、まちづくりを重点に考え、実践した。 「専攻課程」では、「であい課程」を終了後、更に学びたい人のため専門別に学習をした。卒業後の実践活動に役立たせるために、体験学習、話し合い、発表等の学習方法を取り入れた。
		1組 50名 2組 50名	5月～2月 36回	
		第2学年		
		1組 46名 2組 49名	5月～2月 36回	
		第3学年		
		福祉コース 22名 歴史コース 26名 情報コース 19名 元気コース 26名	5月～2月 20回	
		第4学年		
福祉コース 21名 歴史コース 22名 情報コース 20名 元気コース 23名	5月～2月 21回			
団体育成	グループ懇談会	利用団体代表者 180団体	4月	利用者団体との意見交換をし交流を図り、公民館活動及び利用のあり方について懇談をした。
	佐倉地区子ども会 育成会連絡協議会	加盟子ども会 8団体	随時	子ども会の育成者を養成し、子ども会同士の交流を図る。市子連研修会に参加した。
広報活動	公民館だより	佐倉市民	1回 1,500部	公民館の事業紹介や募集、地域の情報を提供した。
	「なかま」	佐倉市民	毎月1回 各1,000部	市内高齢者から広く原稿を募集し、意見交換と情報提供を行った。
	高齢者文集 「あゆみ」	高齢者	年1回 250部	「子や孫に伝える思い」「旅の思い出」というテーマに基づいて市内高齢者から原稿を募り、文集とし、文集を通して高齢者の意見交換を行い生き方を学んだ。

1. 家庭教育事業

2 歳児親子あそび教室

- 開設趣旨 幼児にとって遊びは、生活上なくてはならない重要な学習であり、遊びを工夫し豊かにすることは、幼児の心と身体の成長に大切なことである。本講座は、子どもの心の成長と豊かな感受性の育成を担う、親と子のための学習講座として開設する。
- 対 象 2歳児とその親 19組
- 開設期間 平成19年5月24日～平成19年7月12日 午前10時～11時30分
- 学習目標 ①身体で手本を示す親になりましょう。
②学んだことを生活の中で活かす努力をしましょう。
③子供の豊かな創造性を大切に、友達づくりや他の母親との交流に努力しましょう。
- 学習プログラム

回	月 日 (曜日)	学 習 テ ー マ	学 習 内 容	講 師
1	5月24日 (木)	お友達になろう	自己紹介・リズム遊び エプロンシアター	川口はぎ江
2	5月31日 (木)	粘土あそび	小麦粉こねこねして 粘土づくり	川口はぎ江
3	6月 9日 (土)	家族で遊ぼう	草花遊び・伝承遊び ダンボールで遊ぼう	川口はぎ江
4	6月14日 (木)	読み聞かせの楽しさ	読み聞かせ 手遊び	佐倉図書館 中山 賜 栄
5	6月21日 (木)	楽しい遠足	大型バスに乗って	川口はぎ江
6	6月28日 (木)	読み聞かせの楽しさ	読み聞かせ 手遊び	佐倉図書館 中山 賜 栄
7	7月 5日 (木)	絵の具で遊ぼう	手形押し・指絵遊び	川口はぎ江
8	7月12日 (木)	運動会	色々な道具を使って運動会	川口はぎ江

○学習を終えて

今年度は、全8回の親子教室を19組の親子で実施。

最初は多くの人に戸惑っていた子も、講座の回数が進むとともに雰囲気慣れ、遊びへの参加も積極的になって、その中で友達との関わりかた、やってはいけないことなど、遊びをとおして親子で学ぶことができた。

おかあさんは8回の講座で子育てについて考え、子育てを学ぶことができ、また同年代の子どもを持つ親が集うことでともだちづくりや他の親子との交流も深めることができた。

この講座をきっかけに、今後は地域の人ともふれあいながら子育ての時間を大切に過ごしてほしいと願いながら講座を修了した。

1 歳児親子教室「子育てホットクラブ」

開設趣旨 核家族化・少子化の中で、子育てに不安を持つ親の不安解消の糸口となり、仲間づくりをしながら「家庭のあり方・親の役割」を学び、家庭教育力の向上を図る。

対 象 一歳児とその親 19組
(平成17年4月2日～平成18年4月1日生まれ)

○開設期間 平成19年10月16日(火)・23日(火)・30日(火)・11月6日(火)
午前10時から11時00分 全4回

○学習プログラム

回	日 時	学 習 テ ー マ	学 習 内 容	講 師	会 場
1	10.16 (火)	親子で体操しよう	いろいろな道具をつかって たのしく体操をします	NPOさくら 子どもSPOネット 小滝 綾	中央公民館
2	10.23 (火)	絵本を楽しもう	絵本の読み聞かせ わらべうたあそび	佐倉図書館 司 書 中山賜栄	中央公民館
3	10.30 (木)	こどもの救急	乳幼児のための救急処置 法をまなびます	佐倉消防署 救急救命士	中央公民館
4	11. 6	親子であそぼう	楽しく親子遊びをします	川口はぎえ	中央公民館

○講座を終えて

今年度は、例年行っている親子遊び、体操、読み聞かせの他に、「こどもの救急」を加えた全4回の講座を行った。応募者は定員を超える応募があり、当初16組の募集だったが、希望者が多数だったため、20組に定員を増やしたが最終的には19組の親子の参加となった。

「こどもの救急」ではこどもの心肺蘇生法や、異物除去の方法などを学習した。

「親子de食育講座」

開設趣旨 欠食や偏食など食生活の変化などによる食生活の乱れが子どもたちの健康に及ぼす害が懸念されている中で、親子で正しい「食」の知識を身につけ、「食」の楽しさ大切さを学ぶ。

- 学習目標
- 1、食材について知る。
 - 2、食材の扱いについて知る。
 - 3、食の機能について知る。
 - 4、食文化について知る。

講師 西志津中学校 栄養士 小林由喜子

対象・人数 小学生とその親 18組（42名）

期間・回数 平成19年8月26日（日） 午前の部 9：00～12：30
午後の部 13：00～16：00

場 所 中央公民館 調理室

学習内容 講義と調理実習 メニュー 手作りパンとスープ
講座を終えて

今年度より、6館共通家庭教育事業として開催。この講座は調理実習をするだけでなく、調理実習を通して、栄養、調理する際のマナー、食事の際のルール等を学び、「食」について理解を深めた。

夏休みに開催ということで、当初募集したより多くの申し込みがあり、全員に参加してもらいたく急遽午後に追加講座を実施した。今回の講座に参加して、お母さん達は「食」の大切さを改めて感じたようだ。

親子体操教室

- 開設趣旨 体操をとおして、親と子が触れ合いを大切にしながら、子どもの様々な発達を伸ばしていく。
- 対象 2・3歳児とその親 17組
- 開設期間 平成20年2月12日～平成20年3月11日
午前10時～11時30分
- 学習目標
- ①身体で手本を示す親になりましょう。
 - ②学んだことを生活の中で活かす努力をしましょう。
 - ③子どもの豊かな創造性を大切に、友だちづくりや他の親子と交流しましょう。

○学習プログラム

	月 日	テーマ	内 容	講 師
1	2月12日	開講式、リズム遊び	自己紹介・リズム遊び	小瀧 綾
2	2月19日	タオル体操	タオルを使って飛んだり、投げたりして遊ぶ	
3	2月26日	新聞紙遊び	新聞紙でボールを作ったり、破った新聞で雪遊び	
4	3月4日	器具遊び	マット、平均台、跳び箱を使って遊ぶ	
5	3月11日	器具遊び	ボール、フープなどを使って遊ぶ	

○学習を終えて

17組の応募があった。この親子体操教室は基本的に親と子がペアとなってからだを動かしたり体操をするので、お母さんは少し大変そうであった。最近小学生の運動能力の低下が深刻であるようで、幼児期の頃からからだを動かす楽しみを感じさせることが大切である。

2. 少年教育事業

ジュニアカヌースクール

- 開設趣旨 カヌーを体験することにより、地元の印旛沼に親しむとともに、年齢の異なる仲間との団体活動をとおして社会性・自発性の涵養を図る。
- 対象 小学生3年生～6年生・中学生 16人
- 開催期間 平成19年6月24日(土)から10月14日(土) 隔週土曜日 全8回
午前10時から午後1時まで
- 指導者 佐倉市カヌー協会
- 学習プログラム

回	日時	テーマ	学習内容	指導者
1	6月24日(土)	開講式・実習	講義と会場見学・実技	佐倉市カヌー協会
2	7月1日(土)	実習	基本技術の習得	〃
3	15日(土)	〃	〃	〃
4	8月5日(土)	〃	〃	〃
5	19日(土)	〃	〃	〃
6	9月2日(土)	〃	〃	〃
7	9日(土)	〃	〃	〃
8	10月7日(土)	〃	〃	〃

○講座を終えて

以前は、夏休み期間中の4日連続開催を行なったが、参加者が少なく、夏休み前の土曜日開催に変更してから4年目。基本的な技能の習得を中心としたスクールを実施したが、過去のスクール生が指導を補助し参加者にマン・ツー・マンのように教室をサポートしてくれた成果として、早くカヌーを親しめるようになり、ボールを使ったり、レースをしたり、より高度な技能を身につけることができた。

練習場所はカヌー教会が普段の練習場所としている印旛沼中央水路であり、子どもたちはカヌーの体験を通してふるさと佐倉の自然に親しんでいる。

カヌー協会の役員による心暖まるカレーライスの昼食会が催され、参加者同士の親睦が図られた。今後はキャンプ食を取り入れたり、デイキャンプとカヌー、サイクリングとカヌー等、複合した事業も郷土の自然環境を活かした青少年の育成に有益な事業展開が計画できるものと考えられる。

チャレンジクッキング

- 開設趣旨 普段なにげなく口にしている食事。しかし人にとって食は大切な生活の営み。子供たちに食の大切さを知ってもらうと同時に、自分で食事をつくることの喜びを知ってもらう。
- また、食から郷土の文化にもふれてもらうことで、郷土を愛する心を育てる。
- 対象・人数 小学校4・5・6年生 23人
- 開設期間 平成19年7月1日(日)・7月22日(日)・8月5日(日)
- 時間・回数 午前9時から12時30分 全3回
- 学習目標 1. 自分で作ったものを食べる喜びを知る
2. 学んだことを生活の中で活かす努力をする。

プログラム

回	日 時	学 習 内 容	講 師	会 場
1	7月 1日	夏の一番人気デザート・ゼリー(4種類) 卵ごはんのお焼き	西志津中学校 栄養士 小林由喜子	中央公民館 調理室
2	7月22日	クレープ オレンジケーキ	〃	中央公民館 調理室
3	8月 5日	パンづくりに挑戦	〃	中央公民館 調理室

講座を終えて

食の大切さを学んでもらおうと開催したこの講座も、4年目を迎え、佐倉地区の小学生に定着した講座となって来た。今年度は募集を開始してから3日で定員に達してしまい、参加できなかった子が多くなってしまい来年度以降の課題だと思われる。

講座の内容は、楽しく調理実習をしながら、食事の大切さ、料理をする際のルール、食事のマナーなどを学習した。参加した子どもたちからは、「とても楽しかった」「また参加したい」との感想をもらい講座を終了した。

子どもの居場所作り

○開設趣旨 放課後の子どもたちのたまり場を公民館の中に整備し、公民館利用各グループの学習時中に子どもを参加させ、各グループの日常の学習の成果を子どもたちに提供し、子どもたちの一緒に関わりを交流する「子どもたちの居場所作り」を計画しました。

○対象 小学生（主に佐倉地区4小学校）

開催期間 小学生の夏休み期間

○学習プログラム

教室名	日程	時間	人数	参加グループ名
花とあそぶ 生け花教室	7/24・27・31	10時～12時	23	佐倉市華道連盟
囲碁教室	7/26・27	10時～12時	32	生涯学習・水曜会
楽しい折り紙教室	7/26	10時～12時	29	生涯学習・水曜会
飛ばして遊ぼう	7/31	10時～12時	27	飛ばそう会
子ども焼き物教室	7/31 8/30	9時30分～12時	20	生涯学習・水曜会
茶道教室	8/1・8	午後2時～4時	22	松葉会
楽しい絵画教室	8/3	9時～午後3時	43	翔
うたごえ教室♪	8/5・19・24	10時～12時	15	生涯学習・水曜会
お茶のおけいこ楽しいよ	8/7	午後2時～4時	7	静和会
かげえ教室	8/10	9時～15時	11	影絵塾9
ちゅうかちまきをつくろう	8/10	9時～12時	19	よもぎ
おやこウッドクラフト	8/26	9時～12時	17	
折り紙教室	8/22	10時～12時	19	折り紙サークル
鈴虫をかって、秋の音楽会を聞こう	中止		—	生涯学習・水曜会

鈴虫については、鈴虫の卵が孵化せず、中止となりました。

○事業を終えて

17年度から始めた事業である。延べ284名の小学生の参加があり、11団体もの公民館利用サークルの協力があつた。

星空教室

○開設趣旨 星空観察を通して宇宙の広大さ、不思議さを感じるにより、あらゆるものについて好奇心・探究心を抱いてもらう。また環境、光害について考える。

○対 象 佐倉市内の小学生とその親

○学習プログラム

回	日 時 及 び 場 所	学 習 内 容	指 導 者
1	平成19年8月5日(日) 19:30~20:30 白銀小学校ラウンジ、校庭	・夏の星座について資料をもとに説明し、夏の星座をさがす	白銀小学校長 大野 尊史 公民館職員
2	平成19年8月28日(火) 14:00~15:00 中央公民館	・夏の星座について資料をもとに説明し、夏の星座をさがす	公民館職員
3	平成19年11月30日(金) 18:30~19:30 白銀小学校ラウンジ、校庭	・秋の星座について資料をもとに説明し、夏の星座をさがす	白銀小学校長 大野 尊史 公民館職員
4	平成20年1月26日(土) 18:00~20:00 白銀小学校ラウンジ、校庭	・冬の星座について資料をもとに説明し、冬の星座をさがす	みさと天文台長 矢動丸 泰

○講座を終えて

16年度からはじめた事業である。9名の参加があった。講義編では代表的な星座を中心に、その星座の神話や探し方を解説した。実技編では肉眼で星や星座を観測した。佐倉地区は夜でもまだ明るく星空を観測するには厳しい環境ではあるが、親が子に星座の探し方を教え、親子での交流が自然に図られていたことは良かった。昼間行った講義編の内容は小学生低学年にも親しみやすいように簡単な内容にした。

通学合宿

開設趣旨 子どもたちが生活体験をすることにより、協調性、自主性を育むとともに両親の大切さを感じる機会を提供する。また、両親には、子ども離れることで日頃の親子関係を考える機会を提供する。そして、スタッフに地域の人材を入れることで、地域で子どもを育てる意識を啓発する。

対 象 佐倉小児童24名 佐倉東小児童21名

開催期間 佐倉小 平成19年7月8日(日)～11日(水)

佐倉東小 平成19年11月4日(日)～11月7日(水)

指導者 地域人材 佐倉市民カレッジ生 生涯学習課職員 公民館職員
学習プログラム

回	月 日	学 習 内 容	会 場
1	7月8日(日) ～11日(水)	・開校式 ・献立決め・買物・朝食・夕食(調理、後片付け)・洗濯 ・入浴(もらい湯)・清掃	中央公民館
2	11月4日(日) ～11月7日(水)	・閉校式	佐倉高校 セミナーハウス

講座を終えて

佐倉小学校の通学合宿は、中央公民館の裏側の水路でのザリガニ釣りでは、カレッジ生が子どもたちにザリガニの釣り方を教えながら昔話を聞かせるなど、世代間の交流が図られた。自由時間のほとんどをザリガニ釣りで過ごしていたようだ。かんたんな釣竿を自分たちで作るなど貴重な自然体験ができたようである。

佐倉東小学校の通学合宿では、過去に通学合宿に参加した佐倉東中学校の生徒に協力ボランティアとして参加いただいた。今回参加児童の6年生の中には、「中学生になったらお手伝いとして参加したい」とアンケートにもあり、次年度も中学生ボランティアを活用していきたいと考えている。

3. 成人教育事業

健康講座 ～自然散策・森林と巨木を訪ねて～

- 開設趣旨 健康ブームといわれる今、佐倉の森林と巨木を訪ね歩きながら、郷土を学び、自然を体感し、一番身近な運動であるウォーキングをしながら、幅広い年齢層がウォーキングを通じて交流を持つことを目的としています。
- 対 象 市内在住一般成人 30名
- 学習目標 1 佐倉市内の森林を巡り、その知識を学ぶことによって、自然環境について考える機会を提供し、郷土愛を育む。
2 ウォーキングをとおして、健康づくりへの意欲を養い、健康について考える。

開催期間 平成19年10月27日(土)
午前9時～午後12時まで

○学習プログラム

	日 時	学 習 内 容	指 導 者	場 所
1	10月27日(土) 9:00～12:00	散策 佐倉地区 重願寺——城址公園——佐倉幼稚園—— 麻賀多神社——甚大寺——解散	森林と巨木を 訪ねる会	中央公民館

○講座を終えて

前年度好評であった「佐倉市内の森林と巨木を巡る」といった自然散策を重点に、ウォーキングをしながら、健康づくりについて考えることに加え、佐倉市内の豊かな自然に触れ合うことで、郷土愛を育み、環境について考える機会を提供することができた。

昨年度参加者から、とてもすばらしい講義で翌年もぜひ実施して欲しいという声が多く、また、志津地区だけでなく、佐倉市内の各地区で実施して欲しいという声が多くあがっていたので、今年度は佐倉地区を散策した。来年度は臼井地区の散策を予定している。

佐倉学入門講座 ～幕末・明治の佐倉探訪～

○開設趣旨 「佐倉の歴史に興味があるけれども、きっかけがない」「これから佐倉の歴史を学んでみよう」というかたを対象に、佐倉地区を歩きながら、幕末から明治のはじめにかけての佐倉を講義及び散策をしながら学習する。

○対象・人数 一般成人 62名

○期間・回数 平成20年3月1日～平成20年3月8日 全2回(土曜日)

○学習目標

1. なぜ歴史のまち佐倉といわれているのか、その一つである幕末佐倉藩を知ることから学び始める。
2. 郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養う。

○学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	テ ー マ	学習内容	講 師
1	3月1日(土) 10:00～12:00	幕末の佐倉藩について	講義 堀田正睦とその時代	国立歴史民俗博物館 名誉教授 塚本 学
2	3月10日(土) 9:30～15:30	史跡散策 ー佐倉地区ー	旧堀田邸・武家屋敷 順天堂記念館・ほか	佐倉歴史案内人の会

○事業を終えて

本事業は、「佐倉学講座」の中の1講座として開講しました。

1回目が講義、2回目が散策でという、歩く前のある程度の知識を得てから、史跡散策を行うという講座です。

講義については、国立歴史民俗博物館名誉教授 塚本学先生にお願いし、幕末の佐倉について、堀田正睦を中心に2時間程度の講義をいただいた。

散策については、佐倉市民カレッジ卒業生を中心にした佐倉歴史案内人の会に企画段階から参画していただき、これから佐倉の歴史を学んでみようという方を対象として、幕末から明治のはじめの動乱期に活躍して、佐倉の先覚者に焦点をあてた歴史探訪とした。

NHKの大河ドラマ「篤姫」で、堀田正睦佐倉藩主が登場されることもあって、60名以上の参加があった。はじめて講座に参加する方が多く、歴史上の人物を数多く輩出している佐倉の歴史への関心の高さが伺えた。今後、さらに佐倉の歴史学習を続けて、ふるさと佐倉の創生に対する積極的な活動につながっていくことを期待したいと思います。

佐倉学専門講座 ～古今佐倉真佐子を読む～

○開設趣旨 約300年前に佐倉の様子を絵図に添えて書きつづられた「古今佐倉真佐子」から、当時の佐倉城内をはじめ武家屋敷、風俗、風習及び動植物に至るまでを学ぶものです。佐倉市の歴史を学習し郷土佐倉の創生につなげることを目的にします。

○対象・人数 一般成人 99名

○期間・回数 平成19年6月10日～平成19年8月12日 全7回

○学習目標

1. 約300年前の佐倉藩の町並み、風俗、風習、風土等を学ぶ。
2. 郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養う。

○学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	テーマ	学習内容	講師
1	6月10日(日) 13:30～15:30	「古今佐倉真佐子」を読む	「古今佐倉真佐子」の後半部分について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
2	6月17日(日) 13:30～15:30	「古今佐倉真佐子」を読む	前回の続きから「古今佐倉真佐子」について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
3	7月1日(日) 13:30～15:30	「古今佐倉真佐子」を読む	前回の続きから「古今佐倉真佐子」について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
4	7月8日(日) 9:30～15:00	「古今佐倉真佐子」を読む	前回の続きから「古今佐倉真佐子」について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
5	7月15日(日) 9:30～15:00	「古今佐倉真佐子」を読む	前回の続きから「古今佐倉真佐子」について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
6	7月29日(日) 9:30～12:00	「古今佐倉真佐子」を読む	前回の続きから「古今佐倉真佐子」について解説	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
7	8月6日(月) 9:30～12:00	「古今佐倉真佐子」に登場する史跡散策	大佐倉地区の史跡散策	外山信司 佐倉市文化財審議会委員
7	8月12日(日) 9:30～12:00	「古今佐倉真佐子」に登場する史跡散策	大佐倉地区の史跡散策	外山信司 佐倉市文化財審議会委員

○事業を終えて

本事業は、「佐倉学専門講座」の中の1講座として開講しました。

講義については、外山信司先生(佐倉市文化財審議会委員)にお願いして、平成18年度の続き(古今佐倉真佐子の後半部分)を1回2時間程度の講義を6回、加えて史跡散策を1回行い、江戸時代中期の佐倉藩の町並み、風俗、風習、風土等を学習しました。

なお、講座には、佐倉市民カレッジ12期歴史コース卒業生15名がボランティアとして、講義並びに散策に協力をいただきました。

今回参加者が99人でしたが、その内半数の方が初めて参加された方で、前半部分を学習したいので次年度もこの講座の開講を望む声が多く寄せられました。市民の佐倉の歴史に対する関心の高さが伺えました。今後、さらに佐倉の歴史学習を続けて、ふるさと佐倉の創生に対する積極的な活動につながっていくことを期待したいと思います。

佐倉学専門講座 ～ 印旛沼の自然 ～

○開設趣旨 かけがえのない豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいくために、佐倉市の自然環境の象徴である「印旛沼」について学ぶものです。「佐倉の自然について学んでみたい」という方々を対象に、佐倉市の自然を学習し郷土佐倉の創生につなげることを目的にします。

○対象・人数 一般成人 24名

○期間・回数 平成19年6月16日～平成19年6月30日 全3回(土曜日)

○学習目標

1. 佐倉市のシンボルでもある印旛沼の歴史、自然環境等を学習します。
2. 郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養う。

○学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	テーマ	学習内容	講師
1	6月16日(土) 13:30～16:30	佐倉学専門講座 「印旛沼の自然」について	印旛沼水源地の植物の様子 印旛沼の地質・地形と水循環 水の流れと生物	NPO法人水環境研究所
2	6月23日(土) 13:30～16:30	野外講座 ー上座公園周辺の湧水ー	小竹城址周辺と上座公園の湧水調査	NPO法人水環境研究所
3	6月30日(土) 13:30～16:30	水の汚れと浄化	湖沼の特徴 湖沼浄化技術 生物的浄化技術 私たちでできる浄化対策	NPO法人水環境研究所

○事業を終えて

本事業は、「佐倉学専門講座」の中の1講座として開講しました。

1、3回目が講義、2回目が野外講座という構成で、事業を実施しました。

講師は、NPO法人水環境研究所の職員にお願いしました。各分野の専門職員による講義により、「印旛沼の自然」という講座で、印旛沼に自生する植物をはじめ、印旛沼の地質や地形とそれに伴い水の循環、印旛沼周辺に生息する生物、印旛沼に注ぐ湧水の調査、湖沼の特徴とその浄化方法(技術)、生物が行う水の浄化、そして私たち人間ができる湖沼の浄化と幅広い分野の講義をいただきました。

学習内容が多岐にわたっていたので、もう少し時間的に余裕があれば、受講者の理解が深まったと思われました。また、講座名が「印旛沼の自然」なので、野外講座を印旛沼で行ったほうが受講者の関心を高められたと思われました。次年度以降は、この点を考慮して講座を企画していきたいと思えます。

今後、さらに佐倉の自然科学の学習を続けることで、ふるさと佐倉の創生に対する積極的な活動につながっていくことを期待したいと思います。

佐倉学講座 ～城下町佐倉を撮ろう～

○開設趣旨 「佐倉の歴史に興味があるけれども、きっかけがない」「これから佐倉の歴史を学んでみよう」というかたを対象に、写真家から写真撮影のポイントを教わりながら佐倉市立中央公民館周辺の町並み等の撮影を通じて、佐倉市の歴史を学習し郷土佐倉の創生につなげることを目的にします。

○対象・人数 一般成人 11名

○期間・回数 平成19年6月17日～平成20年3月29日 全5回

○学習目標

1. 城下町佐倉に残る史跡等を撮影することから、佐倉の歴史を知ることから学び始める。
2. 郷土愛を育み、ふるさと佐倉創生への意欲を養う。

○学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	テーマ	学習内容	講師
1	6月17日(日) 9:30～12:00	武家屋敷を中心にした エリアの史跡撮影	撮影するうえでのポイントについて解説	写真家 堀越 知道
2	9月15日(土) 9:30～12:00	旧堀田邸を中心にした エリアの史跡撮影	撮影するうえでのポイントについて解説	写真家 堀越 知道
3	10月13日(土) 9:30～15:00	第1回、第2回に撮影した 写真の講評	写真から撮影のポイントについて解説	写真家 堀越 知道
4	2月17日(日) 9:30～15:00	佐倉城址と その周辺の撮影	撮影するうえでのポイントについて解説	写真家 堀越 知道
5	3月29日(土) 9:30～15:00	佐倉城址の撮影と 前回撮影した写真の講評	写真から撮影のポイントについて解説	写真家 堀越 知道

○事業を終えて

本事業は、「佐倉学講座」の中の1講座として開講しました。

第1回、第2回、第4回が現地で撮影を行い、第3回、第5回が講評を行いました。11人の参加者の写真歴は、初心者からキャリア20年と様々ですが、「城下町佐倉」をテーマに佐倉地区の史跡を撮影しました。写真家の堀越知道氏に講師をお願いして、撮影時から撮影した写真の講評まで撮影のポイントについて解説をいただきました。また、参加者も撮影場所について事前に学習するなどして、テーマを持って撮影を行いました。

作品につきましては、佐倉市民カレッジ文化祭をはじめ、佐倉市立美術館の「アート・フォト・サクラ」に出展しました。中には、ちばグリーンバスの佐倉観光循環線に展示され、佐倉の歴史紹介に使用された作品もあり、撮影技術の向上のみならず佐倉市のPRにも多大に貢献しています。

今後、写真撮影の技術を高めるとともに佐倉の歴史を学ぶきっかけをつくり、ふるさと佐倉の創生に対する積極的な活動につながっていくことを期待します。

佐倉学講座 「手作りこんにゃく」づくり

- 開設趣旨等 佐倉のこんにゃくは江戸時代、佐倉の名産品として「利根川図志(1858年)」や「遊歴雑記(1814年)」に紹介されていた佐倉名物でした。しかし、いつの頃からかその名前は聞かなくなっていました。佐倉の食文化の一旦を担って見聞された「佐倉こんにゃく」をテーマとし、自家製のこんにゃく芋を使って「手作りこんにゃく」づくりに挑戦し、体験を通して郷土への愛着を深めることを目的とします。
- 内 容 自家製のこんにゃく芋を使って「手作りコンニャク」を作っている農家の方を講師に向かえコンニャクづくりに挑戦します。
- 対 象 市内在住一般成人 18名
- 開催期間 平成19年11月17日(土) 午前9時30分～15時00分
- 講座を終えて 佐倉学講座の実技編として開催。参加者はこんにゃくづくりは初めてという方ばかりで、中にはこんにゃく芋をはじめて見たという方もいた。こんにゃく芋から食べられる形にするには労力も時間もかかったが、それだけに満足感の得られる講座となったようだ。佐倉の食文化の一旦を担っていたこんにゃくづくりに挑戦したことで郷土への愛着はより深まったようだ。

パソコン広場

- 開設主旨 パソコン初心者程度のかたが自由にパソコンに触れることができるように、パソコン広場として場所とパソコン機器を提供する。さらに、市民カレッジ卒業生からなるパソコンスタッフがパソコン広場の企画・運営にあたる。
- 対 象 一般成人
- 開設日時 自由利用………毎週月～金曜日(休館・保守点検日を除く)の午前10時～午後4時に自由に利用できる
 スタッフ指導………隔週の火曜日と木曜日と金曜日はパソコンスタッフが指導にあたる
 パソコンイベント………パソコンスタッフが企画し、秋に開催する
- パソコン広場利用人数

内 容	日 時	利用人数(延べ)	パソコンスタッフ
自由利用	毎週火曜日から木曜日 午前10時～午後4時	326人	
スタッフ指導	隔週の火曜日と木曜日と金曜日	(自由利用者と重複) 249人	市民カレッジ卒業生 10期・11期・12期 各10人
パソコンイベント	H19.12/2 午前9時40分～午後2時40分	42人	市民カレッジ卒業生 10期・11期・12期 29人
合 計		787人	

地域づくり入門講座・避難所体験講座

○開設趣旨 本事業は、市内公民館共通講座「地域づくり入門講座」の一環事業として実施するもので、佐倉市の政策的課題に対して、広く地域人材を発掘し、地域活性化（地域教育力の底上げ）を図ることを目的とし、災害時に設置される避難所の体験を通じて、参加者に日ごろから災害に対しての心構えや、備え、防災について意識を高めるため「避難所体験講座」を開催する。

○対象・人数 一般成人 18名

○期間・回数 平成20年3月9日 日曜日

○学習プログラム

回数	月日(曜日) 時間	テーマ	学習内容	講師
1	3月9日(日) 10:00～12:00	【第1部】 佐倉市の防災対策	講義・資器材の説明	佐倉市役所 交通防災課職員
2		【第2部】 避難者の救命救急	講義・実技	佐倉市八街市酒々井町 消防組合職員

○事業を終えて

本事業は、全館共通事業「地域づくり入門講座」の一環として開講した。

災害時の地域課題として、避難者の対応や傷病者の応急処置などは地域の住民が力を合わせて、地域の安全は地域で守るという意識を高めてもらうことを目的として行った。

参加者の熱心な様子からは、災害に対しての心構えや、備えなどを日ごろから意識しており、防災についての意識の高さを伺うことができた。一方で、事業自体の魅力がないことや、広報が十分でなかったため、参加が非常に少ない中での実施となった。来年度以降、テーマの変更も視野に入れ、さらに地域づくりに繋がる講座を展開していきたい。

4. 高齢者教育事業

四年制高齢者大学校「佐倉市民カレッジ」

1. 開設までの経緯

中央公民館では、年々増加する高齢者が、社会の変化とともに歩み、自己の能力を伸ばし社会活動へ参加し充実した生き方ができるよう、昭和53年5月に「佐倉市高齢者短期大学校」(以下短大)を開設した。

短大が数年経過すると学生の学習意欲が高まり、卒業した学生からさらに学びたいという希望が生まれ、短大6期生より自主的に2年間の学習を行う「生きがい学園」が誕生した。

また、短大生たちの中で4年間続けて学ぶことの意義が認識され、短大の学習内容のひとつである「市長への提言」にて「高齢者のための四年制の大学校の設置」という提言がなされた。そして、公民館運営審議会委員、福祉関係有識者、短大卒業生を含めた「高齢者の望ましい姿を考える会」が発足し、四年制大学校の設置の概要と方向性として、地域活動の実践、郷土佐倉を愛する心の育成、40歳以上への学習機会の提供などが示された。

このような経緯を踏まえて、公民館棟に接続して四年制大学校の専用校舎を建設し、「佐倉市民カレッジ」という名称のもと平成4年5月に開設した。初年度は40歳以上60歳未満の20名を含む第1学年100名、短大の卒業生が編入した第3学年96名の2つの学年によりスタートした。そして、平成5年度より新1年生と短大の編入生である新3年生を含めた4学年が揃い、本格的な四年制大学校としての歩みを始めた。

2. 開設の趣旨

佐倉市民カレッジは、高齢化社会の中で、市民が健康で生きがいをもち、地域との連携をもちながら住みよいまちづくりを考え、実践をとおして生涯学習のできる場となるよう開設されている。

また、佐倉市民カレッジ(以下カレッジ)では高齢者のみならず、高齢準備期である40歳代からの人にも学習の機会を提供し、高齢者と互いに学び、支え合うことを大切なねらいとしている。

3. 入学対象・定員

(1) 入学対象者

- ①佐倉市に在住する市民で、健康で継続して学習できる人
- ②積極的に自主学習ができる人
- ③卒業後は地域活動に積極的に参加できる人

(2) 定員：100名(年齢別募集)

※各学年の年齢構成は以下のとおり

60歳以上	80名
40歳から59歳まで	20名

なお、平成19年度の応募・入学状況は以下のとおりである。

募集学年	募 集 定 員	応 募 数	入 学 者 数
第1学年	60歳以上	80名	152名
	40歳から59歳まで	20名	19名
	計	100名	計 171名
			計 100名

※平成19年度の学生数

学 年	クラス コース	入学・進級者		修了・卒業者	
		人 数	小 計	人 数	小 計
第1学年	1 組	50	100	48	96
	2 組	50		48	
第2学年	1 組	46	95	46	92
	2 組	49		46	
第3学年	福 祉	22	94	22	93
	歴 史	26		26	
	情 報	19		19	
	元 気	26		26	
第4学年	福 祉	21	86	20	83
	歴 史	22		22	
	情 報	20		20	
	元 気	23		21	
計			371		363

4. 佐倉市民カレッジ運営委員会

カレッジには、佐倉市民カレッジ運営委員会を設置している。委員会は佐倉市公民館運営審議会委員、佐倉市民カレッジ卒業生、識見を有する人等によって構成している。

また、運営委員会はカレッジの運営や学習内容の方針、学生の進級などについて審議する。

・佐倉市民カレッジ運営委員会委員

	役 職	人数	氏 名
1	佐倉市教育委員会教育次長	1	鶴澤 登美子
2	佐倉市公民館運営審議会委員	2	高石 惣一郎
3	佐倉市民カレッジ卒業生代表	3	西谷 和明 栗飯原 敬一 山田 滋
4	識見を有する人	4	松本 惇逸 越沢 七子 安蒜 嘉榮 内田 正恵

※平成19年4月1日現在

5. 佐倉市民カレッジの学習内容

(1) 「であい課程」の学習

カレッジの学習期間は4年間であるが、その前半の2年間は「であい課程」という。主に一般教養として、佐倉の歴史、健康、家庭、生きがい、法律、環境、市政、福祉、経済、仲間づくり等の広い分野を学ぶ。

また、「であい課程」では、今までの生活になかった自分とであい、仲間とであい、地域にであう中で、新たな生きがいを見つけることが学習のねらいとなっている。

「であい課程」2年間の学習日数は70日程度で、約140単位に及ぶ。その学習形態は講義形式のほか、話し合い、身近な公共施設などについて学ぶ市内めぐり、いくつかのグループに分かれ、テーマを設定してその内容について討議し、代表者が発表するグループ発表、また個人発表、健康運動などの

実習などと様々である。このほか、学生が自ら考え、自己責任において行う地域活動の自己申告取得単位制度を設けている。

「であい課程」1年では、生きがいについての学習がある。「私の生きがい」をどのようなものに求めているか、何が生きがいになっているか等自分の生きがいについて考え、お互いに発表し合い相互理解を深め、文集「私の生きがい」にまとめる課題がある。2年の、「市政を学ぶ」の学習テーマでは、実際に市政に携わっている市役所の職員等を講師として招き、市民公益活動の推進、基本計画と財政、環境と環境保全、福祉と健康、教育施策「佐倉学」等について学習する。それをもとに、個々に自分の考えるまちづくり構想をもち、各グループに分かれて実践活動を行い、その成果を「まちづくり実践報告会」で発表した。一連の学習の過程で、個々に市政についての理解を深めるのが大きなねらいである。

(2) 「専攻課程」の学習

3年生からの「専攻課程」では、講義と実践をとおして、卒業後も地域で生き生きと活動ができるようになることを目標として設置している。

また、他コース、他学年の講義を聴く聴講制度、さらに地域活動をすることで単位を取得する自己申告取得単位制度を設け、学生が自主的に学習できる体制を整えている。

「専攻課程」には4つのコースを設けている。学習日数は2年間で40日程度、約80単位に及ぶ。コースの名称は「あったか福祉コース」「ふるさと歴史コース」「さわやか情報コース」「ゆっくり元気コース」である。

①「あったか福祉コース」

「あったか福祉コース」では、現代的課題となっている介護を通して福祉活動を考えていく時間とし、3年生では一歩専門的な理論・技術を習得し、制度への理解を深め、介護を生活に身近な面からとらえ総合的視点で学習するために、3級ヘルパー養成プログラムを活用した学習をした。介護制度を理解することにより、利用者としての制度活用を図り、その結果サービスの質の向上に寄与する。

4年生では「他を認める」「話を聞く」「話をする」という、人と人の交流の基本を学び・経験することは、人が生活し地域社会を構成していく中で必要な「コミュニティ」形成の原点を考え・学んでいくことにつながり、カレッジ学習の基本である「地域づくり」を根本から学んでいくことにつながると考え、「傾聴」をテーマとした学習に取り組んだ。

また、学習したことを他に伝え・教えることで「学び」を一層深めていく時間として「学び合い学習」を行った。

②「ふるさと歴史コース」

「ふるさと歴史コース」では、郷土佐倉の身近な偉人・先覚者や、歴史的町並み、またその時代にいたる変遷、背景について学び、郷土佐倉を愛する心を育てていく。

その内容は講義形式の授業を受けるだけでなく、自主的にテーマを設定して研究レポートを作成し、発表する主体的な学習を行っており、さらに、今後の地域活動につながるよう、他コースに佐倉の史跡を案内して教えるという「学び合い学習」を行っている。

現在、卒業生による「歴史ボランティア」グループが結成されており、歴史コースでの史跡散策などの指導や学習補助をボランティアで行っている。

③「さわやか情報コース」

「さわやか情報コース」では、デジタルデバイスと言われる情報格差を埋めると同時に、デジタル技術を使用した情報発信を学ぶことで地域の情報の共有化を進めることを目的として、様々な学習を行っている。

佐倉市の情報施策や、情報化社会一般の現状についての講義を聴くほか、情報を伝達する機器を利用

して、自主的に地域活動ができるようになるために、3年生では基礎からのパソコン実習、「公民館だより」の作成、ホームページの作成。4年生ではパソコンの学習成果を活かしたイベントの企画・実施や、ビデオ・デジカメ撮影実習を行っている。また、地域活動における名簿作り。会計資料作成に役立つように、表計算ソフトの講義も行っている。また学習日以外の、パソコン自主学习も盛んである。

そのほか、佐倉市の情報ネットワークの拠点である広域高速ネット296を見学し、高度情報化しつつある地域の現状についての理解を深める学習も行う。

「ゆっくり元気コース」

「ゆっくり元気コース」では、自分の健康管理を自分で行うために必要な知識の習得を講義・実習とおして行う。

3年生では「歩くこと」を健康づくりの基本と考え、ウォークラリーのコースを作成し、作成されたコースが市民カレッジや地域の行事に活用されることにより市民カレッジ生の地域参画が期待される。そのほか、生活習慣病（成人病）に対する理解と予防、地域ぐるみの健康づくりなどについて学ぶ。さらに、リズム体操や太極拳、ヨガなどの実習をおして、自分に合った健康づくりを発見する。

4年生では、今までの主体的な学習の過程や成果を実践活動を通して、健康の維持と地域活動への導入を図る。具体的には、NPO、協会での実践活動を通して地域での活動を学ぶ。また、各種スポーツイベントに参加し、多様な健康づくり、レクリエーション等への理解を深めるとともに事業の企画運営を考察する。そのほか、健康づくりに関する今後の自分たちの活動について話し合う学習も行っている。

「専攻課程」の学習のまとめとして、それぞれのコースで学んだ事を伝え合う「学び合い学習」を今年度より行った。また「学んだことを活かす」というテーマでそれぞれのコース内で個人発表や話し合いを行い、そして、各コースの代表者による意見発表が行われた。

カレッジでの学習成果や、現在自分が行っている地域活動を紹介する中で、今後の自分の高齢者としての生き方について、長年蓄積した豊かな知識と経験から意見を発表する。それをいかに実践していくかが、カレッジを卒業してからの課題となる。

6. 佐倉市民カレッジの学習の特色

カレッジでは、学習の質を高め、より専門的な学習を行っていくために、他施設と連携を取りながら学習を展開する。特別養護老人ホーム、広域高速ネット296、武家屋敷、東京情報大学などと連携して学習を進める。また、これらを含めた平成19年度の主な校外学習は、以下のとおりである。

①1年 ウォークラリー

6月13日、仲間を知り、地域を知る学習として佐倉城址公園を中心とするコースにおいて実施した。途中、設問を解くことをとおして、身近な地域の施設・史跡についても学んだ。

②1年 市内めぐり

6月27日、7月11日にクラス別にそれぞれ実施し、酒々井リサイクル文化センター、敬愛大学環境情報研究所、勝間田の池、下総馬渡宿百観音など市内の様々な施設を見学してまわり、佐倉市について理解を深めた。

③専攻課程各コースの校外学習

3学年	6月15日	元気	ウォークラリーとニュースポーツ
	6月22日	歴史	佐倉の史跡散策
	6月22日	情報	東京情報大学見学と講義
	9月14日	歴史	大佐倉の史跡散策
	9月21日	元気	体力テスト（千葉県スポーツ科学センター）

	10月 3日	福祉	国際福祉機器展見学
	10月12日	歴史	成田山の歴史を学ぶ
	11月30日	元気	自分たちでルートを見つけみんなで歩く
	11月 9日	歴史	白井の史跡散策と自然観察
	11月30日	情報	広域高速ネット296スタジオ見学
	11月30日	歴史	志津の史跡散策
	2月 1日	福祉	特別養護老人ホーム「白翠園」見学
4学年	6月14日	歴史	歴史コース卒業生から学ぶ(佐倉地区史跡散策)
	9月13日	情報	ビデオ短編製作実習
	9月27日	4コース合同	草笛の丘で自然観察と陶芸
	10月 4日	元気	体力テスト(千葉県スポーツ科学センター)
	10月11日	歴史	佐原のまちづくりから学ぶ
	10月11日	情報	情報発信の現場を見てみよう(ていぱーく・読売新聞社)
	10月25日	歴史	佐倉の歴史を伝える(史跡案内)

7. 平成19年度の主な行事

(1) 始業式・入学式

5月19日、始業式に引き続き第16回入学式が行われ、100人の新入生が晴れの日を迎えた。

佐倉市民カレッジ総長の蕨和雄市長は「カレッジ生活を通して多くの人と出会い、人から学ぼうという姿勢を常に持ち続け、自ら考え進んで行動し、魅力あるまちづくりを担う人を目指し、愚直に邁進されたい」との祝辞をいただいた。続いて、在校生を代表して第4学年さわやか情報コース在籍の安藤さんから歓迎の言葉があり、これを受けて新入生の永田博英さんが新入生100名を代表して入学の言葉を述べた。

(2) 第12回スポーツフェスティバル

第12回スポーツフェスティバルは、市民体育館を会場に10月5日(金)に、クラスや学年を超えた新たな仲間づくりと健康づくりを目標としてカレッジ生全員により盛大に実施した。

種目は、ボール送り、スプーンレース、綱引き、ダンス、風船割り、相手探し、玉入れ等があり、実行委員会を中心に手作り運動会となった。

(3) 文化祭

11月13日から11月18日にわたり、カレッジ生による文化祭を中央公民館大ホールを主な会場として実施した。今年度より卒業生にも研究活動発表や舞台発表にも参加してもらい、より多くの人と新たな交流と親睦を深めた。出品作品は、絵画・書道・手工芸・洋裁・和裁・盆栽と多岐の分野にわたり合計319点の出品があり、それぞれに万感の思いが込められた力作揃いであった。

今年度より、コース・クラスによるイベントの部が設けられそれぞれ工夫をこらしたイベントが行われた。最終日には舞台発表の部を開き、練習の成果を発表し、たのしい有意義なひとときを過ごした。

(4) 「まちづくり実践報告会」(2年)

2学年は、私たちの考えるまちづくりについて、行動のための具体策を話し合い「まちづくり実践報告会」を実施した。この学習は、カレッジ生個々の市政に対する学習の取り組みを重視する形を取り、市政の学習をもとに自分ならこのようなビジョンを持つと個々に考えをまとめ、その後に課題意識を同じくする仲間グループ(課題部門別)を形成し、各部門別に調査研究、討議を重ねた内容を実践し、

それらの実践活動を、平成20年2月5日に市長を迎えて、1・2年合同の学習形態で、各部門の代表者により発表した。なお、発表に際して多様な機器を活用するなど創意工夫が見られた。

その発表内容は、「佐倉の魅力情報を発信する」「美しいまち、美しい心、佐倉」「堀田家廟所清掃隊一起承転結」「竹林整備の中で 竹の知識や竹の利用を学ぶ」「花のまちづくり環境美化運動」「城跡を歩く一悠久の歴史散策」の6点であった。

(5) 修了式・卒業式

平成20年2月16日に平成19年度修了式、続いて第15回卒業式を行った。

皆勤者5名を含む83名が、今後の活躍を胸に秘めながら卒業証書を手にした。

蔵総長は「市民カレッジで「学び」という縁で出会った多くの仲間とともに力を合わせて、今後益々活躍してください」との言葉を述べられた。

卒業生を代表して歴史コース 黒岡美江子さんが卒業の決意を述べ、通い続けた学舎を巣立った。

8. 佐倉市民カレッジ生の課外活動

カレッジ生は自主的にサークルを結成し、学習日以外にも積極的に活動している。これらのサークルに対し、公民館では活動の場を提供している。

日頃の学習とは異なり、趣味を深める活動や地域社会へ貢献していくための活動などそれぞれに様々な活動を行っている。中でも、園芸サークルは、異学年や卒業生と交流を深めつつ、公民館周辺の花壇の管理、環境美化活動をボランティアで行っており、四季折々の花壇や玄関スロープの花々が来館者の目を楽しませている。

5. 広報・展示事業

広 報 事 業

公民館だより

ね ら い 中央公民館主催事業や中央公民館の使用申込みについてなどを紹介する。

○発行回数 年1回

○発行部数 1, 500部

○配布方法 各公民館、図書館、コミュニティセンター

○内 容 佐倉市民カレッジ であい課程・専攻課程の概要、文化祭、スポーツフェスティバル
まちづくり実践報告会、サークル活動 他

○展 望 佐倉市の広報紙と連携をとりながら、幅広い紙面づくりに心がけたい。

「なかま」

ね ら い 高齢者の手による、高齢者の啓蒙と情報提供及び紙面を通しての仲間づくりをめざす。

○発 行 年12回（毎月1回）

○発行部数 毎月1, 200部 （年間1, 200部×12ヵ月＝14, 400部）

○配布方法 市内公民館・図書館・老人福祉センター・老幼の館・コミュニティセンター等で配布。
また、編集委員による配布や市民ハイキング参加者への配付も行っている。

○編集方法 佐倉市高齢者短期大学の卒業者、佐倉市民カレッジ生とその卒業生からなる高齢者のボランティア編集委員20名が編集会議を毎月2回開いている。

編集会議では、原稿の依頼・校正・割付けなどの編集作業と、年間計画やこれからの方向性などについて話し合っている。

また平成17年度からは佐倉市民カレッジ情報コース卒業生がボランティアで版下作成を行っている。

○内 容 A4版4ページの体裁で、1面は市長及び編集委員の原稿、2・3面は市内在住の高齢者の方から頂いた投稿文を掲載している。4面は成人向けの中央公民館の主催事業や公民館からのお知らせや、コラム的なさくら道、編集委員によるあとがきを掲載している。また今年度『なかま』編集会議が、社会教育に貢献した功績により、平成19年度印旛郡市社会教育委員連絡協議会表彰を受けた。

なお、平成19年度の1面から3面の題と投稿者は次のとおり。

「なかま」掲載記事

発行年月	号	主 題	内 容
平成19年 4月	366号	孀恋村の思い出(編集委員 坪井浩)	おけらのたわごと(上志津 永見一) 薄れゆく季節感(ユーカリが丘 山根百合子) ウォーキングで知ること(臼井田 鈴木文次郎) クブチ沙漠の植林(井野 平田京子)
5月	367号	佐倉市民カレッジと私(編集委員 越川道子)	模型飛行への熱き思い(井野 吉岡秀武) アメリカでのエピソード(中志津 斎藤きく子) 視聴者の自覚(山王 鈴木和夫) 我が家の畑(中志津 伊藤由紀子)
6月	368号	「いじめをどうする」に触発されて(編集委員 服部一宏)	輝いた目は美しい(大崎台 里見芳郎) 白と・ ^{キュウ} ^{キョク} (新臼井田 村田長保) “いじめ”をどうする(南臼井田 廣吉正毅) 佐倉朝日マラソン今昔物語(西志津 白石義孝)
7月	369号	夢のあとで(編集委員 永見一)	佐倉の水(臼井 細野栄次) 佐倉の小路(井野 三好幸四郎) 徒然草を学ぶ(王子台 瀬田貴久子) デンデンちゃんとの出逢い(井野 平川興治)
8月	370号	佐倉七牧 ^{ななまき} (編集委員 金井義彰)	ボヴァリー夫人の児戯(新臼井田 村田長保) そば談義(上志津原 宮武孝吉) 母の教え(井野 山崎衛良) 名アナウンサー(千成 宮本定雄)
9月	371号	遠い夏の日の記憶(編集委員 岩淵幸雄)	六十、七十は洩垂れ小僧 ^{はなた} (臼井 加瀬清子) 身辺雑記 ^{しんぺんざっぴ} 形見の着物(中志津 富原敏光) 「君が代」の由来(染井野 郡山武志) 山吹(井野 清澤瞳子)
10月	372号	漢文の教科書(編集委員 矢島とも)	ブルースターのほほえみ(千成 菅原郁子) うちの庭(城内町 山影初子) 一人の命は一人の命ではない!(ユーカリが丘 渋谷晟一) 梅原猛先生のこと(上志津 吉野一志)
11月	373号	建築模型(編集委員 石崎幸助)	床屋と葦とロバの耳(新臼井田 村田長保) 語呂合せと格言(千成 宮本定雄) 裸の付き合い(上座 北原きみ子) 参道にて(一期 ^{いちご} 二 ^に 会 ^え) (弥勒町 高橋将)
12月	374号	身近な自然をより良い形で残したい(編集委員 栗原欣一)	異文化(染井野 友松清子) 奇蹟(中志津 北村耕三) 君が代で想うこと(大蛇町 佐久間努) 木屋の咲く頃(臼井 加瀬清子)
平成20年 1月	375号	新春に寄せて(佐倉市長 蕨和夫)	「天障院篤姫」と「佐倉」(大蛇町 石川節子) 自然公園で田んぼ(中志津 亀川努) 親父の小言(白銀 高橋克俊) 牛肉を食わねば開化不進奴(上志津 永見一)
2月	376号	故郷(編集委員 栗田勢子)	ピアノとの戯れ(ユーカリが丘 山根百合子) 小さな旅日記(錦木町 服部富士子) 連想(新臼井田 坪井栄子) 癒しのベンチ印旛沼(江原台 原田歌都子)
3月	377号	生活雑感～日記から～(編集委員 松山洋子)	「殿」の銅像に向かい合って(南臼井田 廣吉正毅) 父の教え(井野 山崎衛良) 僕を見たカンボジアの現実(井野中2年 小西智也) 佐倉市民カレッジ2年生の思い(王子台 山寄武則)

高齢者文集「あゆみ」

- ねらい 高齢者の自由な意見や考えの発表の場であり、また、それをもとにして高齢者同士や異なった世代間の交流をはかる。
- 対象 市内在住・在勤で60歳以上の高齢者
- 発行 年1回 200部
- 配布方法 投稿者には1冊無料配布、それ以外は有償で頒布
- 編集方法 高齢者のボランティア編集委員25名で構成している編集会議を随時開催し、テーマの設定、原稿募集、編集、校正などを行う。
- 原稿募集 こうほう佐倉で広く募集。
- 内容 年度ごとにテーマを設定し、そのテーマについての意見・考えをまとめて投稿していただく。
- あゆみをふりかえって

年度	号数	テ ー マ	投稿数	頁 数	表 紙
昭和49	1	長寿大学生の文集	20	19	菖蒲と燕(イラスト)
50	2	長寿大学生の文集	14	19	東関東自動車道(イラスト)
51	3	生活記録集・長寿大学によせてなど	23	49	佐倉厚生園の庭にて
52	4	ボランティアを考える	29	58	ゲートボール
53	5	ふるさと佐倉	52	86	版画
54	6	80年代の夢	17	28	高齢者短期大学校、特別授業「一日議会」風景
55	7	若い頃の思い出	25	42	風景画
56	8	(特にテーマなし)	57	86	市役所屋上より、国立歴史民俗博物館をのぞむ
57	9	これからの夢	66	109	ユーカリが丘の「ボナ」
58	10	私達の佐倉	71	108	麻賀多神社
59	11	高齢化社会	60	75	印旛沼の水鳥の群れ
60	12	交流の輪	69	83	新装の国鉄佐倉駅
61	13	私の健康	71	97	佐倉朝日健康マラソン大会のスタートの様子
62	14	私の楽しみ	70	95	ダンスを楽しむ(ワープロ画)
63	15	旅	96	133	成田街道、ありし日の伊篠の松並木
平成元	16	出逢い	76	108	チューリップ広場
2	17	その時、あの時、私は	84	120	新装の鹿島橋
3	18	親の思い出	87	126	改築後の中央公民館
4	19	私の夢	63	83	鷹匠橋と彫刻(ワープロ画)
5	20	チャレンジすることの楽しみ	54	76	オランダ風車(ワープロ画)
6	21	私の戦後50年	79	100	佐倉市立美術館(ワープロ画)
7	22	忘れ得ぬ人	54	82	佐倉市立志津図書館
8	23	私が今、伝えたいこと	49	72	岩名運動公園陸上競技場
9	24	近ごろ、思うこと	47	65	佐倉市ヤングプラザ
10	25	二十一世紀に向けて	60	81	旧堀田邸
11	26	(6つのテーマから選択)	49	70	和田ふるさと館
12	27	愛・戦中戦後の思い出	78	118	ミレニアムセンター佐倉
13	28	ふるさと 大切にしたいもの	75	118	佐倉消防署
14	29	私の昭和 私の楽しみ	76	133	佐倉・国際印旛沼花火大会
15	30	佐倉に住んで 思い出	64	105	あゆみ1号から29号までの表紙
16	31	子や孫に伝える思い 旅の思い出	45	85	あさがお
17	32	昭和の時代 豊かな老いとは	42	72	鷺
18	33	美しい国日本とは 近頃の話について	45	77	コーヒーカップ

6. 団体育成事業

定期利用グループ懇談会

- 開設趣旨 中央公民館を利用しているグループ・サークルに対し、公民館の利用方法について説明し、利用にあたっての協力を求め、各グループがお互いに快適な学習活動ができるような意識づけをする。また、各グループの情報交換や公民館への要望を聞く場とし、同時にグループ・サークル間の懇談を図る。
- 対象 中央公民館利用グループ・サークル 139団体 193名
- 開催期日 平成19年4月19日(木) 午前10時～正午まで
- 内容 1) グループ活動への期待
2) 平成19年度中央公民館利用の手引き
3) 公民館への要望・質問
4) 事務連絡

調理室利用グループによる調理室点検

- 開設趣旨 調理室を定期利用しているグループに対し、お互いの交流の機会を作ると共に、調理室の効率的な活用と適正な運営を図る。
- 対象 調理室を定期利用しているグループ
全10団体 20名
- 開催期日 ①平成19年 6月11日(月) 午前10時～11時30分
②平成19年12月10日(月) 午前10時～11時30分
- 内容 1) 調理室の清掃
2) 公民館備品の整理・点検
3) グループ備品の整理
4) グループ間の懇談
5) 公民館への要望

佐倉地区子ども会育成会連絡協議会

佐倉地区子連は、佐倉地区内の子ども会及び子ども会を取り巻く諸関係機関団体との連絡・調整を図り、各単位子ども会の健全な発展に寄与することを目的として結成された。会の運営は、役員が中心となっており、総会・役員会・各事業などを実施している。中央公民館では、事務局としての役割、子ども会安全会の申込みの受付、市教育委員会との連絡、備品の貸与等を行っている。今後とも地域における子ども会の重要性は益々大きくなっていくと思われるので、これからも活動を支援していきたい。

〈単位子ども会数及び会員数〉

○単位子ども会	8団体
会 員 数	417名（昨年より4名増加）
幼 児	17名（昨年より16名減少）
小学生	328名（昨年より13名増加）
育成者	72名（昨年より7名増加）

〈主な事業〉

実施月日	事業	内 容	会 場
4月17日(月)	平成18年度総会	17年度事業報告 17年度決算報告 18年度事業計画 18年度予算案	中央公民館
	安全会説明会	生涯学習課より	
5月11日(木)	役員会	育成者研修会について	中央公民館
6月8日(木)	育成者ゲーム講習会	市子連事業に参加	青少年センター
6月30日(金)	育成者(役員)研修会	施設見学	東京都水の科学館他
7月14日(月)	育成者野外料理講習会	市子連事業に参加	青少年センター
10月10日(火)	役員会	クリスマスコンサートについて	中央公民館
10月21日(土)	中央交流フェスティバル	市子連事業に参加	七井戸公園
12月3日(日)	クリスマスコンサート	ブラスバンド演奏会	中央公民館
19年 3月19日(月)	年度末役員懇談会	18年度の活動報告及び 19年度に向けて	中央公民館